防災トイレ循環活用プロジェクト

– 防災トイレを、捨てずに学ぶ。

（行政での寄付受入れ・活用編）

公益社団法人日本非常食推進機構

■ **背景**
・東日本大震災以降、行政・企業の防災備蓄用トイレは大幅に増加
・防災トイレのメーカー推奨使用期限は7～10年
・更新時には社員数 × 1日5枚 × 数日分という大量の備蓄トイレが一斉に入替・排出される

■ **課題**
・入替後の防災備蓄用トイレは使用可能な状態でも産業廃棄物として廃棄されてきた
・一方で、災害時には**「トイレが使えない」「使い方が分からない」**ことが深刻な問題となる
👉**備えとして準備されたトイレが、学びに活かされないまま捨てられている**

■ **プロジェクトの解決策**
・行政・企業が更新時に排出する使用期限が近い、または若干超過した防災備蓄用トイレを廃棄せず、**防災啓発・防災教育を目的**として再活用

防災トイレを、捨てずに学ぶ。

備蓄更新を、廃棄ではなく「社会に役立つ行動」へ。

■ 寄付先と活用事例

(1) 教育機関（小中学校・高校・大学・幼稚園等）
活用目的：防災学習・防災啓発

①防災学習での活用
- 大規模災害時のトイレ問題を考える
- 1日に何回トイレに行く？
- 1人あたり何枚必要？
- 家族構成別（人数・マンション／一軒家）
- 停電時のトイレは？
- 使用後の処理はどうする？

👉 **実際にトイレを開封し、見て・触れて・考える体験型学習**

②家庭への啓発
- 引き渡し訓練等の機会に保護者へ防災トイレを配布
  家庭での使用体験を促進

(2) 自治会・町会
活用目的：地域防災力の向上
- 防災訓練の参加者にトイレ備蓄啓発チラシとともに、参加賞として配布
  各家庭での備蓄・使用体験につなげる
- 回覧配布　回覧板とともに配布し防災啓発を行う

(3)職場での実践・体験として活用

①医療・福祉施設・一般企業

活用目的：災害時の実践的対応力の向上

- 災害時には使用済みトイレが大量に発生
- 使用方法だけでなく、
  👉**後始末・保管・処理までを含めた備えを考えるきっかけ**に

②障がい者施設

- 利用者の身体的特徴が多様
- 職員一人ひとりが個々に応じた具体的な対応を想定・共有するために活用

防災トイレ循環活用プロジェクト　参加の流れ（3ステップ）

STEP 1｜防災トイレ受入れについての調整

- 防災、教育委員会、商工、福祉、環境などの各部局と活用方法の調整を行います

STEP 2｜協定の締結

- 物資の活用及び啓発活動に関する協定書の締結

STEP 3｜寄付品のお届け、活用、報告

- 当法人とお届け数量や、お届け日等詳細を調整
- ご寄付品の配送、お受取り
- 当法人へ「受取確認書」の提出
- 活用、配布
- 活用、配布についての報告（写真送付＊任意）

防災トイレ循環活用プロジェクト　Q&A

Q1. どのような防災トイレを受け取ることができますか？
A. 本プロジェクトで提供する防災トイレは、寄付先において災害時の備蓄として保管・使用することを目的としたものではなく、**防災啓発・防災教育を目的**として使用することを前提としています。
メーカー保証期限内の商品に加え、現物確認を行い使用方法の理解や体験に支障がないと判断した商品でメーカー保証期限から約2年程度超過した防災備蓄用トイレをお届けすることもございます。

Q2. どのような種類の防災トイレが寄付品の対象になりますか？
A. メーカー、型式等は多様です。凝固剤型・吸水型いずれの防災トイレも対象です。
様々なトイレの使用体験をいただくことが学びにつながると考えます。

Q3. 寄付品の受入れに費用負担はありますか？
A. 配送・お届け調整はすべて当法人及び協力団体が対応します。

Q4.「活用、配布についての報告（写真送付＊任意）」はどのようなものですか？
A. ご寄付をいただいた企業へ当法人から報告書を発行しております。その際に、どのように活用されたかを写真付きで報告したいと考えておりますので、報告写真のご送付にご協力をお願いします。

Q5. 受け取った防災トイレはどのような事業で活用することができますか？
A. スライド３、４の活用事例など、さまざまな非営利事業での活用が可能です。
具体的な事例で迷われる場合は当法人までご相談ください。

Q6. どのタイミングで相談すればよいですか？
A. 備蓄用トイレの活用を検討し始めた段階でご相談ください。
企業等からの寄付品を提供するため、お届けまでお時間をいただくこともございます。
お早めにご相談ください。

防災トイレを、捨てずに学ぶ。

備蓄品として役目を終えた防災トイレを、
「次の災害に備える行動」へ。